

# 岩西っ子だより

平成30年10月31日号  
東大阪市立岩田西小学校  
校長 志水 昌子  
072-963-8001

## 《全国学力・学習状況調査結果について》

今年の4月17日(火)に6年生対象に、教育活動の結果を検証し、改善を図ることを目的として、子どもたちの学力や学習状況を把握・分析するために、全国学力・学習状況調査を実施いたしました。その結果が公表されました。

つきましては、その分析をお知らせするとともに、今後も引き続き、岩田西小学校の子どもたちの学力向上に取り組めます。

### 教科に関して

#### 【国語科について】

国語A問題、国語B問題では本校の平均正答率が東大阪市平均正答率にわずかに届きませんでした。しかしながら、国語B問題では、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながらかく読む」設問は、大阪府平均正答率を上回りました。これは、授業の中で、自分の考えを書いたり、発表したりするときは、なぜ、そう思ったのか、理由を説明することを徹底して取り組んできた成果だととらえています。

課題としては、国語A問題の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」設問では、内容や意味を理解して正しく漢字を使う力が定着していないということがわかりました。「せつ極的に開発」と同じ漢字を選ぶ設問では、「面せき」の正答率が、「成せき」、「せき任」の誤答率を下回りました。

低学年の段階から、意図的計画的に短文づくりや熟語などを設定し、漢字の意味を考えながら、正しく漢字を使いながら、内容を書くなど指導する必要があります。この設問は、大阪府・全国の正答率と比べて、若干低い結果となりました。

国語A・B問題の結果を受け、問題文をじっくり読む力をはぐくむことが必要であると考えます。文章中の一つ一つの言葉を大切に、「読む力」の向上をめざしていきます。国語A、B問題ともに無解答率は低く、最後まであきらめずに答えようと努力している様子が見られ、日頃の学習態度のあらわれだと考えています。

これまでも基礎・基本の徹底と読解力の向上、活用力の向上をめざして取り組んできました。

「音読」を中心に国語科の授業改善を行い、2年目になります。今後も、朝学習・放課後学習の充実に取り組んでまいります。家庭学習におかれましても、ご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

#### 【算数科について】

算数A問題では、本校の平均正答率は東大阪市平均正答率よりわずかに下回りました。しかしながら「量と測定」の領域においては大阪府と全国の平均正答率をともにわずかに上回りました。

「4㎡の広さのシートに6人と9人が座ったときの込み具合を尋ねる」設問です。その平均正答率が高かったことは、異種の二つの量の関係として捉えられる数量について、その比べ方や表し方を理解し、単位量当たりの大きさについて理解していることがわかりました。同じく算数A問題の「数量関係」の領域においても大阪府、全国をわずかに上回りました。百分率を求める基準量と比較量を正しく捉え、割合が比較量(割合に当たる大きさ)÷基準量(基準にする大きさ)で求めることができること、及び基準量を100として、それに対する割合で表す方法が百分率であることを理解していることがわかりました。授業の中で理解させるだけでなく、朝学習や放課後学習や家庭学習などでの反復練習の成果と捉えています。

課題としては、算数A問題の「図形」と「数量関係」の領域において大阪府、全国の平均正答率をわずかに下回りました。円に関する設問で「直径が2倍になった時、円周は何倍になるか」の問いに、2倍の正答率が、3.14倍との誤答率をわずかに下回りました。このことから、直径の長さで円周の長さの関係を理解できていないことがわかりました。今後、表を用いて、伴って変わる二つの数量の関係を考察できるように指導していきます。また、簡単な場合について、比例の関係があることを理解させていきます。

算数B問題は、本校の平均正答率は東大阪市平均正答率を若干下回りました。しかしながら、「数と計算」の領域は、大阪府とほぼ同じ平均正答率でした。九九の表の2の段に横に並んでいる5つの数「4、6、8、10、12、14、16」について、例題の説明と同じように説明すると、どのようになるか、言葉と数を使って書くという問いでは、示された考えを解釈し、条件を変更した場合について考察した数量の関係の表現方法を適用して言葉と数を用いて記述できる力があることがわかりました。

課題がみられたのは、「図形」の領域です。「敷き詰めた図形の中から1つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを言葉や式を用いて記述できるか」の問いにおいては、着目した図形の名称、角の大きさを表す言葉や数とその角の大きさが幾つ分で360°になるかを表す言葉や式の2つの条件全てを書き、なおかつ、着目した図形の角を正しく書いていることが、正答の条件になっています。図形の角の大きさが誤っていたり、だけしか書いていなかったりの誤答がありました。

数学的な考え方を養う場面を授業の中で取り組んでいきます。今後も、朝学習・放課後学習において基礎的な学力の定着をめざします。

#### 【理科について】

理科の本校平均正答率は、東大阪市平均正答率を若干下回りました。しかしながら、生命に関する問題で、「人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できるか」の問いは、大阪府平均正答率を上回りました。このことから、授業で得た知識を模型などを用いて説明したり、日常生活と関連付けて考えたりすることができていることがわかりました。また、本校無解答率は、ほぼ全ての設問において、大阪府、全国無解答率より低かったことから、最後まで、あきらめずに取り組んだ様子が見られます。

課題は、概念や科学的な言葉を理解する設問です。「腕を曲げることでできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く」問いに、「関節」、「かんせつ」など正答はありましたが、「ひじ」や「その他の言葉」の誤答もあったので、科学的な言葉を記述する機会を授業の中で、増やし知識を深める工夫をします。

## 児童質問紙に関して

### 規範意識や自己有用感に関すること

「自分には、よいところがあると思いますか」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」、「将来の夢や目標をもっていますか」の問いに「ある」と答えた児童の割合は、大阪府・全国平均を上回っていました。このことから、自己有用感の高いことがわかりました。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」や「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いでは、大阪府・全国平均とほぼ同じ割合でした。学校だけでなく、ご家庭でも話していただいている結果が、規範意識の高さとしてあらわれていると思われます。

### 授業改善に関すること・家庭学習習慣に関すること

「算数の勉強は大切だと思いますか」、「算数の授業の内容はよく分かりますか」、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに「よく分かる」、「思う」と答えた児童の割合は、大阪府・全国平均を上回っていました。「家で学校の宿題をしていますか」は、ほぼ全員が「している」と答え、大阪府・全国平均を上回っていました。「学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに「30分より少ない」と答えた児童の割合が本校昨年度の半分以下になり、家庭学習が定着してきたようすがわかります。

「5年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」は、「思う」と答えた児童の割合が、大阪府平均を上回りました。授業改善に取り組んできたことが、前向きな姿勢につながっていると考えます。

「理科の授業では、実験や観察をどのくらい行いましたか」の問いには、「週1回～月1回」が大半で、「観察や実験を行うことは好きですか」は、「好き」と答えた児童の割合が、大阪府や全国平均を上回りました。実験や観察など、体験を多くすることが、理科が好きになっている原因と思われます。

一方、課題と思われるのは、「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では自分の考えが伝わるよう、資料や、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の問いに「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童の割合は、大阪府や全国平均をやや下回りました。このことから、自分の考えを深め、発表するときの工夫について継続して指導していく必要があります。

「放課後や週末に何をしてお過ごしが多いですか」の問いは、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、インターネットをしたりしている」が、最も多く、ついで、「家族と過ごしている」「友達と遊んでいる」でした。これらは、大阪府・全国平均をやや上回りました。

### 地域や社会に関わる活動に関すること

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の問いに「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童の割合は、大阪府平均をやや上回りました。

「地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」の問いは、「よくある」、「時々ある」と答えた児童の割合が、大阪府・全国平均を上回りました。このことから、児童は、日ごろから、地域の大人と関わりがあり地域で見守られていることがわかります。

ただ、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」や「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問いは、「どちらかと言えば当てはまらない」、「当てはまらない」と答えた児童の割合が、肯定的な意見よりも少し多かったです。学校や家庭で地域のことを知らせる機会を増やし、地域に関心を持ち、積極的に関わろうとする姿勢を育てることが大切だと思います。

### 今後の取り組み

- ・規範意識や自己有用感を高められるように、日々の取り組みや声掛けを大切にします。
- ・授業中、先生や友達の話をしっかり聞き、自分の考えを発表して学び合える集団づくりをめざしていきます。そのためにも、信頼し合える学級集団づくり、子どもたちが自ら学び、自ら考える姿勢を大切にしたい主体的、対話的で深い学びを積極的に取り入れた授業改善に取り組んでいきます。
- ・基礎・基本の定着を図るとともに、読解力・思考力・表現力の育成に取り組んでいきます。
- ・個々の児童の実態に応じた授業内容の工夫・改善を進め、一人ひとりを大切にしたい授業を行っていきます。
- ・朝学習や朝読、図書時間の活用、放課後チャレンジ学習、家庭学習などの充実に取り組んでいきます。